GPS-Academic全受検者集計データ 6か年比較「大学1年生のトレンド変化」

■過去8か年間の入試環境の変化

年度	2025年度の学年	入試年度時点のトピックス
2018年度		・ 定員管理厳格化により、難関私立大で合格者大幅絞り込み→全面的に難化
2019年度		・ 定員管理厳格化により、難関私立大で志願者減→中堅私立大で難化
2020年度		 ・ コロナ禍によるキャンパスロックダウン ・ 大学入試センター試験 最終年度 ・ 定員管理厳格化の反動で合格者数が増加に反転→易化
2021年度		・大学入学共通テスト 初年度・一般選抜における繰り上げ合格者数の増加・コロナ禍による私立大併願校数の減少
2022年度	4年生	・ 大学入学共通テスト 平均点大幅ダウン・ コロナ禍による私立大出願校数減少の継続 + 合格者数の増加→易化
2023年度	3年生	コロナ影響 緩和高校生活3年間すべてコロナ禍だった学年私立大の定員割れが5割を初めて超える
2024年度	2年生	 ・ 旧教育課程 最終年度 ・ 「年内入試」へのシフト加速 ・ 難関私大への積極出願と、中堅私大での共通テスト利用離れ→二極化
2025年度	1年生	「新課程」入試 初年度大学入学共通テストの平均点アップ+「情報」導入私立大学では年内入試、一般入試ともに志願者数増

GPS-Academic 新入生版

		受検期間	集計人数
	2020年度新入生	2020年度の受検可能期間に受検したすべての1年生 (2020年2月~2021年2月)	85,963名
	2021年度新入生	2021年度の受検可能期間に受検したすべての1年生 (2021年2月~2022年2月)	103,547名
大学4年生	2022年度新入生	2022年度の受検可能期間に受検したすべての1年生 (20222年2月~2023年2月)	112,550名
大学3年生	2023年度新入生	2023年度の受検可能期間に受検したすべての1年生 (2023年2月~2024年2月)	131,607名
大学2年生	2024年度新入生	2024年度の受検可能期間に受検したすべての1年生 (2024年2月~2025年2月)	137,310名
大学1年生	2025年度新入生	2025年2月~2025年5月31日までに受検した1年生	129,457名

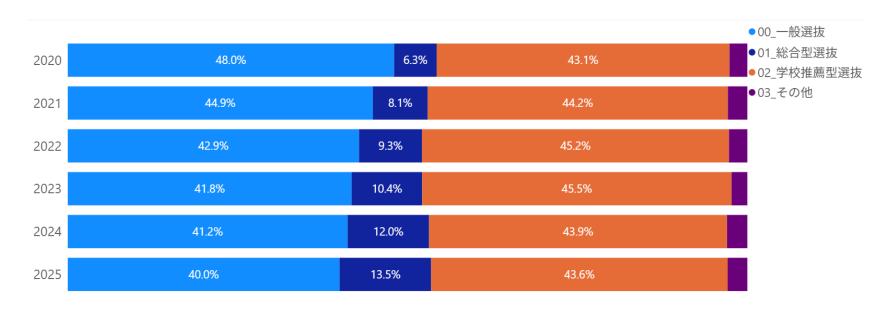
仮説

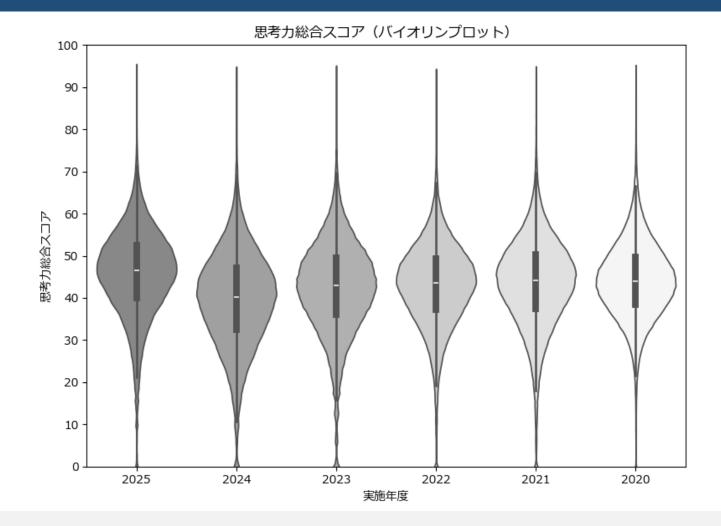


新課程等の影響で、新入生の学び方や経験に変化が見られるのではないか

- 「新課程」での学びによる学習時間や大学選択基準などの変化
- グループワークやディスカッションなど、大学の授業にも必要な経験や姿勢・態度の変化
- 高校ごとの「探究学習」への取り組み方の違いによる影響の有無 …等

実施年度	00_一般選抜	01_総合型選抜	02_学校推薦型選抜	03_その他
2020	41,280	5,382	37,048	2,253
2021	46,485	8,352	45,742	2,968
2022	48,237	10,425	50,845	3,043
2023	54,968	13,666	59,907	3,066
2024	56,528	16,471	60,211	4,100
2025	51,783	17,442	56,483	3,749

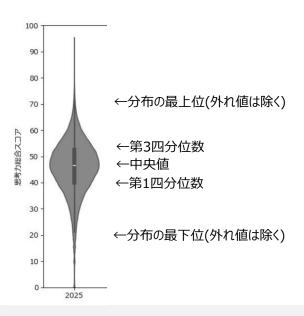




バイオリンプロットとは・・・

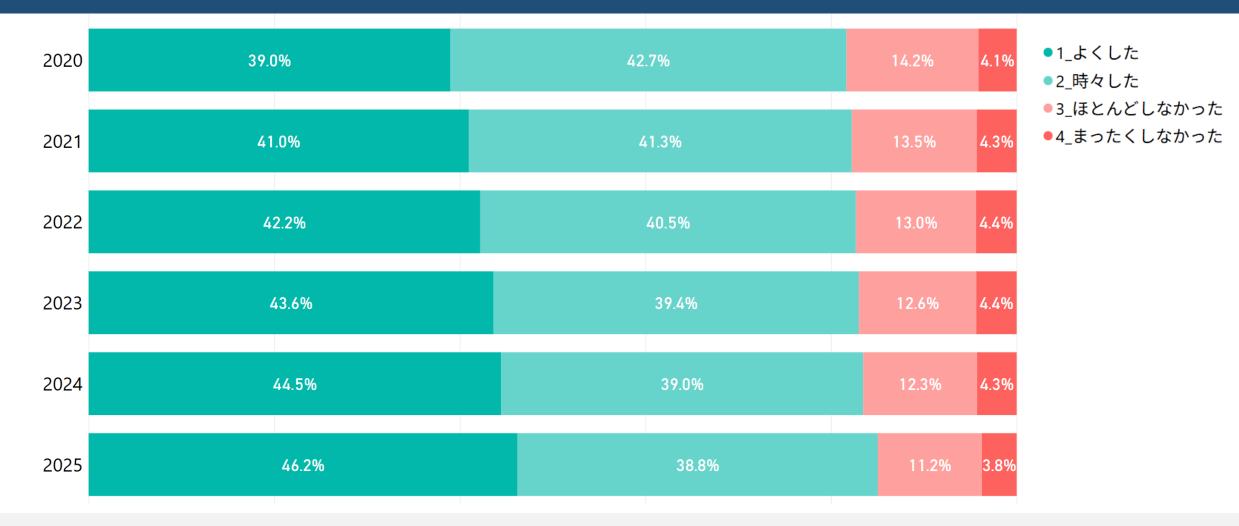
形状から分布の特徴を把握するビジュアル。

今回は、箱ひげ図を組み合わせたビジュアルに なっており、中央値、四分位範囲の確認も 同時に行えます



思考力の高い層がやや増加

2025年では思考力総合で高いスコアとなった学生がやや増加した6か年で比較すると、分布状況などについては大きな変化は見られない



5割近くの学生がグループワークやディスカッションに積極的に参加

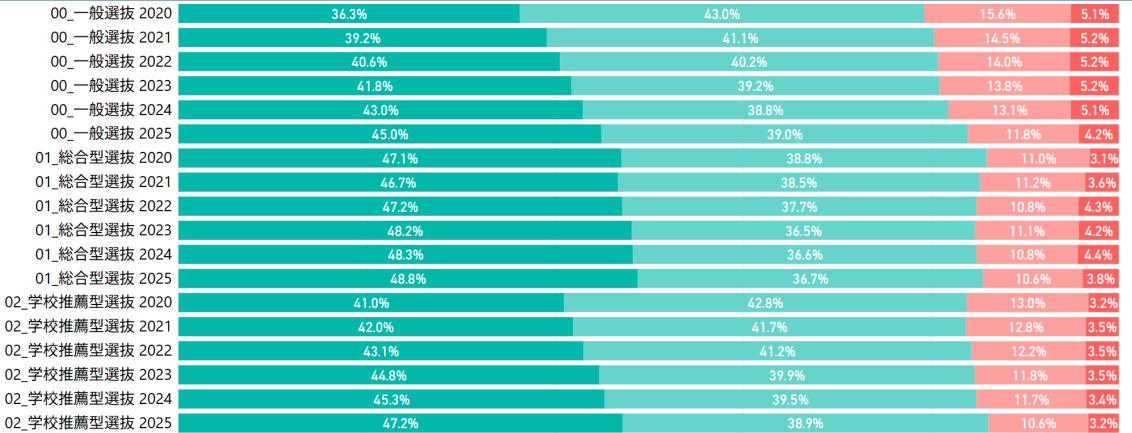
ディスカッションへの積極的な参加を「よくした」と回答した学生の比率が年々上昇し、「よくした」の比率が5割近くに 2025年度は「ほとんどしなかった+まったくしなかった」と回答した学生の比率も減少

●1_よくした

●2_時々した

●3_ほとんどしなかった

●4_まったくしなかった



一般選抜の増加率がもっとも高い

どの入試方式でも「よくした」の回答率が5割弱になり、否定回答(「ほとんどしなかった」+「まったくしなかった」)も減少中でも一般選抜での「よくした」の回答率は2020年度と比較して2割以上増加



議論の目的を明確にする学生が増加

議論の目的を明確にする経験を「とてもよくやっていた」+「よくやっていた」学生が増加 特に、「とてもよくやっていた」の回答率は6年間で一貫して増加

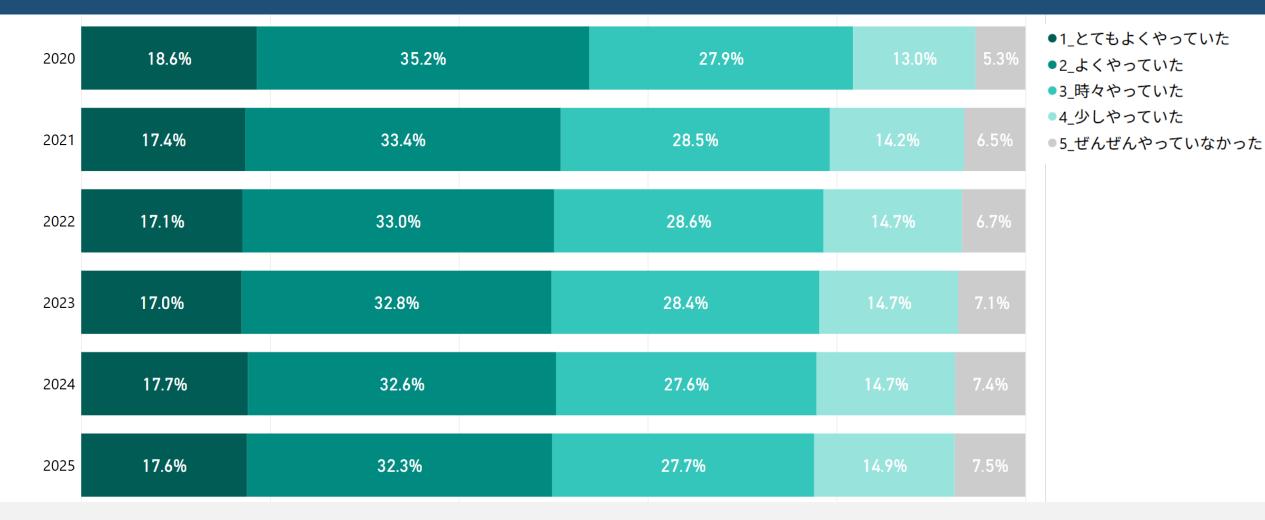
00_一般選抜 2020	18.3%	34.1%	29.5%	13.5%	4.6%	●1_とてもよくやっていた
00_一般選抜 2021	19.0%	33.6%	29.9%	13.0%	4.5%	●2_よくやっていた
00_一般選抜 2022	19.0%	33.7%	29.5%	13.3%	4.5%	●3_時々やっていた
00_一般選抜 2023	19.7%	34.0%	28.7%	13.2%	4.4%	●4_少しやっていた
00_一般選抜 2024	20.5%	33.8%	28.3%	12.9%	4.5%	●5_ぜんぜんやっていなかっ
00_一般選抜 2025	21.5%	34.7%	27.6%	12.3%		
01_総合型選抜 2020	18.5%	34.6%	30.2%	13.2%		
01_総合型選抜 2021	18.7%	32.5%	31.1%	14.0%		
01_総合型選抜 2022	18.6%	32.6%	30.4%	14.0%	4.3%	
01_総合型選抜 2023	19.5%	32.5%	30.4%	13.6%		
01_総合型選抜 2024	18.9%	31.9%	30.4%	14.3%	4.5%	
01_総合型選抜 2025	19.5%	32.3%	29.9%	13.9%	4.3%	
02_学校推薦型選抜 2020	14.8%	33.1%	32.6%	15.3%		
02_学校推薦型選抜 2021	15.1%	32.7%	33.0%	15.0%		
02_学校推薦型選抜 2022	15.6%	32.5%	32.5%	14.8%	4.5%	
02_学校推薦型選抜 2023	16.6%	33.2%	31.5%	14.3%		
02_学校推薦型選抜 2024	16.6%	32.4%	31.4%	14.9%	4.7%	
02_学校推薦型選抜 2025	17.8%	33.1%	30.7%	14.3%		

•2_よくやっていた

- ●3_時々やっていた
- ●4_少しやっていた
- ●5_ぜんぜんやっていなかった

一般選抜での経験率が高い

議論の目的を明確にする経験を「とてもよくやっていた」+「よくやっていた」と回答した比率は一般選抜が6割近くともっとも高い 一般選抜と学校推薦型選抜は「とてもよくやっていた」の回答率が5年連続で上昇



「原因は何か」を考える経験には大きな変化なし

「原因は何か」を考える経験の回答傾向に大きな変化は見られない

2020年から2021年にかけて「とてもよくやっていた」+「よくやっていた」の回答率がやや下がって以降は、ほぼ同じ比率で推移

10

00_一般選抜 2020	17.4%	34.7%	28.2%	13.6%	6.1%
00_一般選抜 2021	16.2%	32.7%	28.6%	14.8%	7.7%
00_一般選抜 2022	15.9%	32.4%	28.6%	15.4%	7.8%
00_一般選抜 2023	16.2%	32.3%	28.2%	15.3%	8.0%
00_一般選抜 2024	17.1%	32.5%	27.3%	14.9%	8.2%
00_一般選抜 2025	16.8%	32.3%	27.5%	15.3%	8.1%
01_総合型選抜 2020	16.3%	33.4%	30.1%	14.9%	5.3%
01_総合型選抜 2021	16.1%	30.5%	30.5%		7.5%
01_総合型選抜 2022	15.3%	31.4%	31.4% 29.8%		7.2%
01_総合型選抜 2023	15.5%	30.7%	29.4%	16.5%	8.0%
01_総合型選抜 2024	15.9%	30.0%	29.1%	16.3%	8.6%
01_総合型選抜 2025	16.0%	29.4%	28.7%	17.1%	8.8%
02_学校推薦型選抜 2020	20.1%	36.1%	27.3%	12.2%	4.4%
02_学校推薦型選抜 2021	18.7%	34.4%	28.1%	13.6%	5.2%
02_学校推薦型選抜 2022	18.4%	33.8%	28.4%	13.7%	5.6%
02_学校推薦型選抜 2023	17.9%	33.7%	28.3%	13.9%	6.2%
02_学校推薦型選抜 2024	18.5%	33.3%	27.5%	14.2%	6.5%
02_学校推薦型選抜 2025	18.6%	33.0%	27.7%	14.0%	6.7%

- ●1_とてもよくやっていた
- ●2_よくやっていた
- ●3_時々やっていた
- ●4_少しやっていた
- ●5_ぜんぜんやっていなかった

学校推薦型選抜の経験率が高い

「原因は何か」を考える経験を「とてもよくやっていた」+「よくやっていた」とする比率は、学校推薦型選抜が他の選抜よりも高い 一方で総合型選抜の「少しやっていた」+「ぜんぜんやっていなかった」の回答率が増加傾向



主体的に問題解決をする経験には大きな変化なし

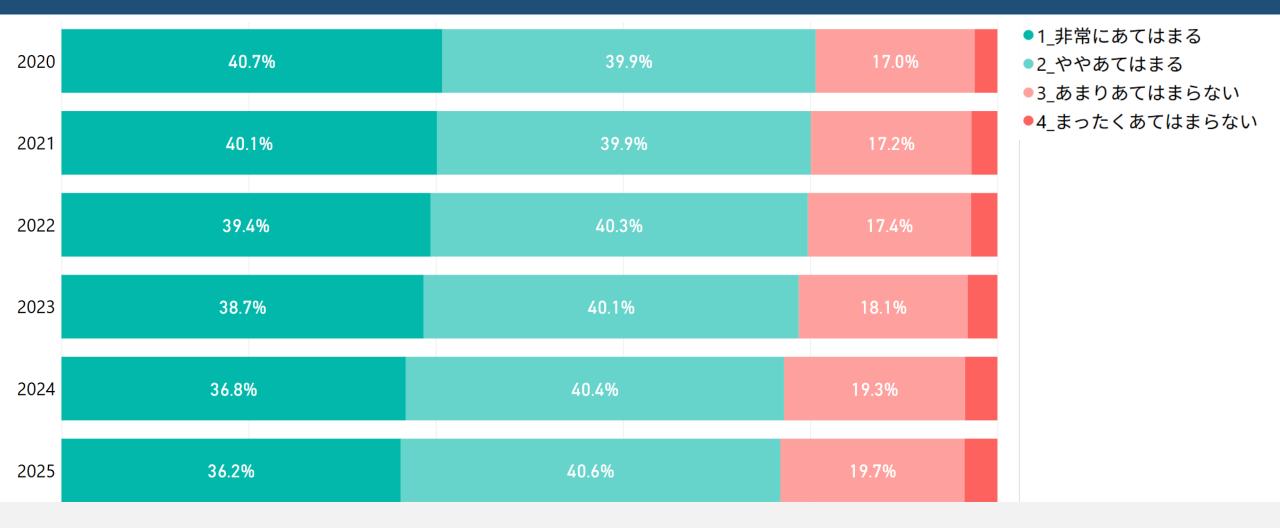
主体的に問題解決をする経験の回答傾向に大きな変化は見られない 「とてもよくやっていた」+「よくやっていた」の回答率は4割弱で、他の経験の項目と比較するとやや少ない

00_一般選抜 2020	12.8%	22.0%	30.3%	21.1%	13.8%	•
00_一般選抜 2021	13.4%	22.7%	30.0%	20.5%	13.5%	• 2
00_一般選抜 2022	13.6%	22.5%	30.1%	20.5%	13.3%	
00_一般選抜 2023	14.3%	23.3%	29.3%	20.0%	13.1%	
00_一般選抜 2024	14.3%	23.0%	29.0%	20.6%	13.1%	
00_一般選抜 2025	14.4%	23.3%	29.0%	20.4%	13.0%	
01_総合型選抜 2020	17.5%	26.1%	31.3%	16.8%	8.4%	
01_総合型選抜 2021	18.0%	25.9%	29.8%	17.7%	8.6%	
01_総合型選抜 2022	17.0%	26.1%	30.0%	17.1%	9.9%	
01_総合型選抜 2023	17.7%	26.2%	29.1%	17.6%	9.3%	
01_総合型選抜 2024	16.8%	25.2%	29.5%	18.1%	10.4%	
01_総合型選抜 2025	16.5%	25.2%	29.9%	18.0%	10.4%	
02_学校推薦型選抜 2020	14.6%	24.3%	30.5%	19.8%	10.7%	
02_学校推薦型選抜 2021	14.6%	24.4%	30.6%	19.7%	10.8%	
02_学校推薦型選抜 2022	14.7%	24.3%	30.6%	19.5%	10.9%	
02_学校推薦型選抜 2023	15.1%	24.7%	30.6%	19.0%	10.6%	
02_学校推薦型選抜 2024	14.7%	24.5%	29.7%	19.5%	11.6%	
02_学校推薦型選抜 2025	14.7%	24.1%	29.8%	20.0%	11.3%	

- ●1_とてもよくやっていた
- ●2_よくやっていた
- ▶3_時々やっていた
- ■4_少しやっていた
- ■5_ぜんぜんやっていなかった

総合型選抜の経験率が高い

総合型選抜では、主体的に問題解決をする経験を「とてもよくやっていた」+「よくやっていた」の回答率が4割子を超え、他の選抜よりも高いただし、その比率は6年間で見るとやや減少傾向



多様な人との交流意欲は、やや減少傾向

8割前後の学生が「多様な人と交流したい」との意欲を持つ(「非常にあてはまる」+「ややあてはまる」) ただし、その比率は5年連続で減少傾向

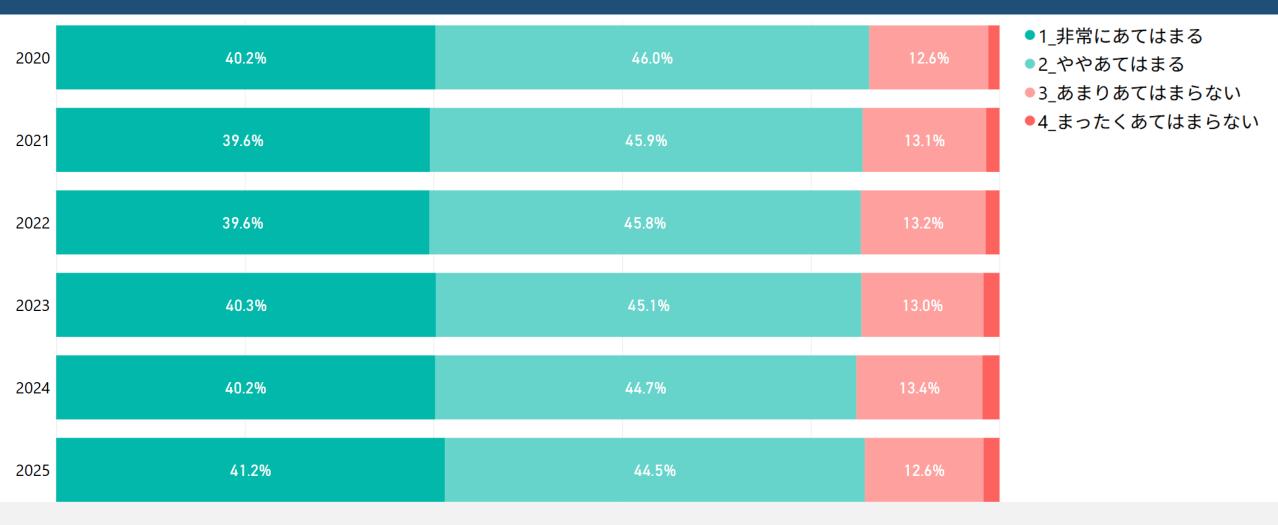
14

00_一般選抜 2020	41.0%	39.6%	16.8%
00_一般選抜 2021	41.0%	39.3%	16.7%
00_一般選抜 2022	40.2%	39.9%	17.1%
00_一般選抜 2023	39.5%	39.6%	17.6%
00_一般選抜 2024	37.8%	40.1%	18.7%
00_一般選抜 2025	37.7%	39.8%	19.0%
01_総合型選抜 2020	44.5%	37.5%	16.0%
01_総合型選抜 2021	43.8%	38.2%	15.5%
01_総合型選抜 2022	41.0%	39.7%	16.8%
01_総合型選抜 2023	41.3%	38.9%	16.6%
01_総合型選抜 2024	38.9%	39.2%	18.6%
01_総合型選抜 2025	38.1%	40.1%	18.6%
02_学校推薦型選抜 2020	39.6%	40.6%	17.5%
02_学校推薦型選抜 2021	38.6%	40.8%	18.0%
02_学校推薦型選抜 2022	38.4%	40.9%	17.9%
02_学校推薦型選抜 2023	37.4%	40.8%	18.8%
02_学校推薦型選抜 2024	35.2%	41.1%	20.2%
02_学校推薦型選抜 2025	34.4%	41.4%	20.7%

- ●1_非常にあてはまる
- ●2_ややあてはまる
- ●3_あまりあてはまらない
- ●4_まったくあてはまらない

どの入試方式でも減少傾向

どの入試方式でも5年連続で肯定回答率(「非常にあてはまる」+「ややあてはまる」)が減少 どの入試方式も肯定回答率は8割弱であり、差は見られない



独自意見を持とうとする意欲は、大きな変化なし

独自意見を持とうとする意欲の肯定回答率(「非常にあてはまる」+「ややあてはまる」)は9割弱 6年間でその比率に大きな変化は見られない

16

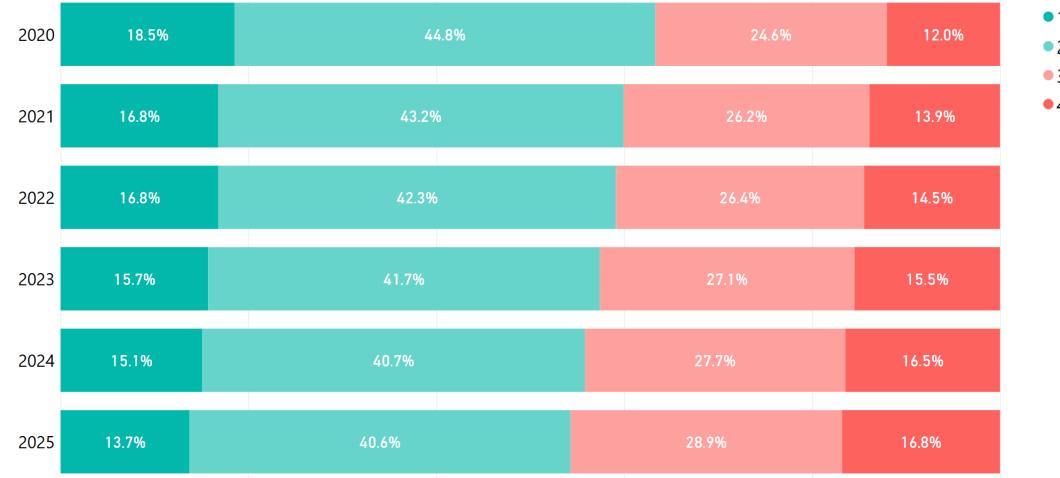
00_一般選抜 2020	42.5%	44.4%	12.0%
00_一般選抜 2021	42.3%	43.9%	12.4%
00_一般選抜 2022	41.9%	43.9%	12.7%
00_一般選抜 2023	42.9%	43.1%	12.2%
00_一般選抜 2024	43.2%	42.4%	12.6%
00_一般選抜 2025	43.9%	42.6%	11.9%
01_総合型選抜 2020	42.0%	45.6%	11.2%
01_総合型選抜 2021	42.2%	45.2%	11.4%
01_総合型選抜 2022	41.2%	45.5%	11.9%
01_総合型選抜 2023	42.4%	44.1%	11.7%
01_総合型選抜 2024	41.4%	44.4%	12.1%
01_総合型選抜 2025	42.4%	43.6%	12.2%
02_学校推薦型選抜 2020	37.3%	47.8%	13.7%
02_学校推薦型選抜 2021	36.5%	48.0%	14.1%
02_学校推薦型選抜 2022	37.0%	47.6%	13.9%
02_学校推薦型選抜 2023	37.4%	47.1%	13.9%
02_学校推薦型選抜 2024	37.0%	46.8%	14.5%
02_学校推薦型選抜 2025	38.7%	46.4%	13.3%

●1_非常にあてはまる

- ●2_ややあてはまる
- ●3_あまりあてはまらない
- ●4_まったくあてはまらない

学校推薦型選抜では「非常にあてはまる」がやや少ない

入試方式ごとの肯定回答率(「非常にあてはまる」+「ややあてはまる」)には大きな差は見られない ただし、「非常にあてはまる」のみの回答率では、学校推薦型選抜がやや低い



●1_よくした

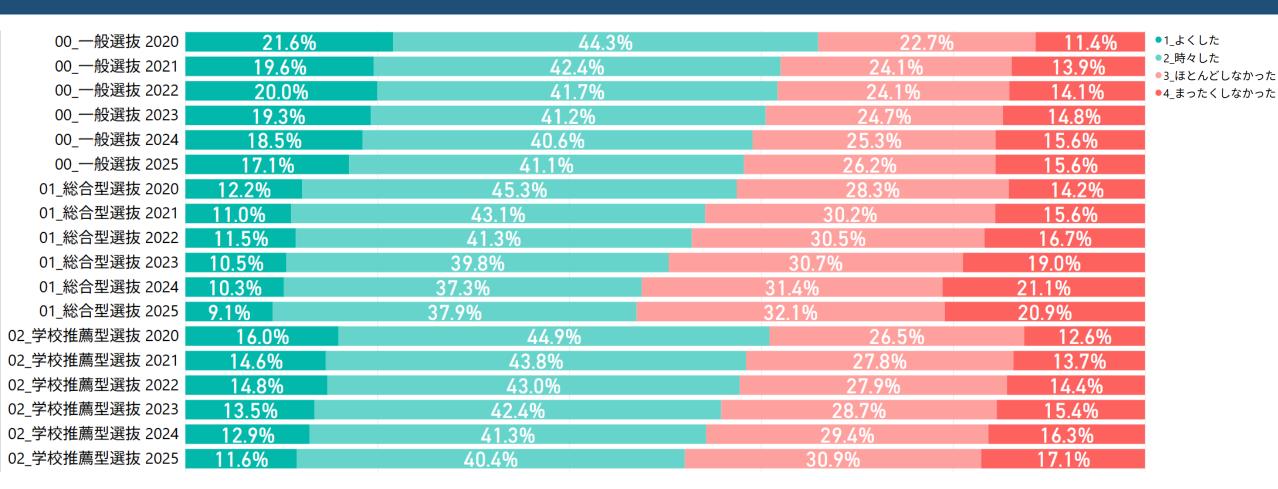
- ●2_時々した
- ●3_ほとんどしなかった
- ●4_まったくしなかった

予復習をする習慣は減少傾向

予復習をする習慣は5年連続で減少傾向

2020年に6割強あった肯定回答率(「よくした」+「時々した」)も、2025年では5割強に

18



どの入試方式でも一貫して減少

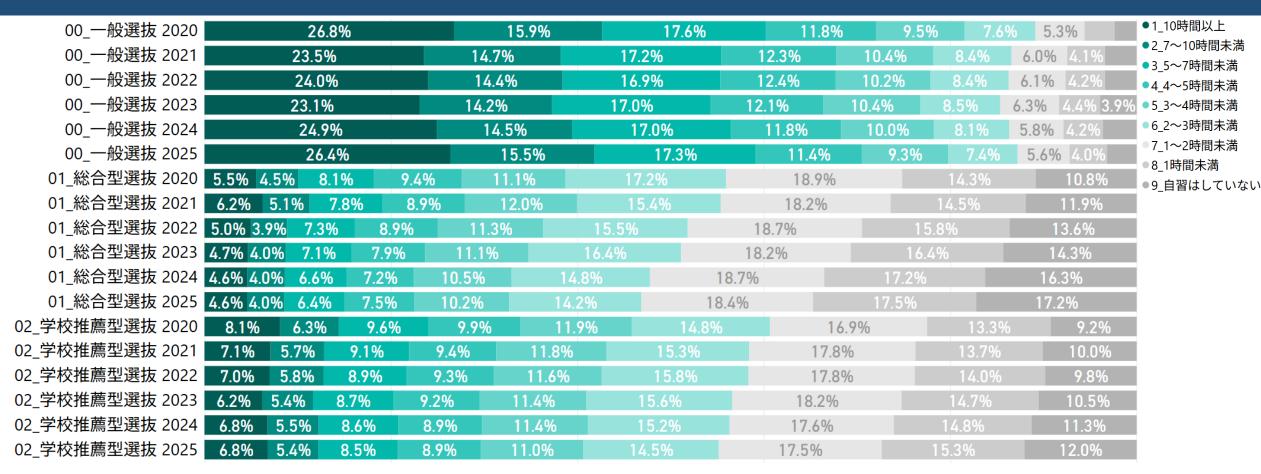
どの入試方式でも予復習の習慣に対する肯定回答率(「よくした」+「時々した」)は一貫して減少中でも総合型選抜の減少率がもっとも高く、2025年では「よくした」の回答率が1割を切っている



- ●1_10時間以上
- ●2_7~10時間未満
- ●3_5~7時間未満
- ●4_4~5時間未満
- ●5_3~4時間未満
- ●6_2~3時間未満
- ●7_1~2時間未満
- ●8_1時間未満
- ●9_自習はしていない

自習時間は二極化

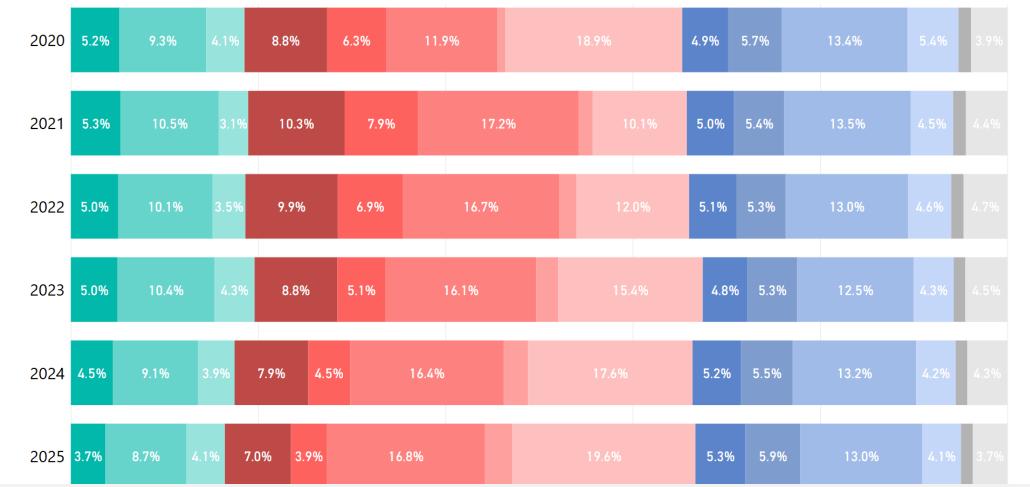
自習時間を3時間以上確保していた学生の比率は2023年以降、5割強で安定的に推移 一方で「1時間未満」と「自習はしていない」の比率は5年連続で増加傾向



一般選抜では自習時間が増加し、年内入試では自習をしない層が拡大

一般選抜では2023年以降自習時間が増加し、2025年では「10時間以上」が全体の1/4を超えた

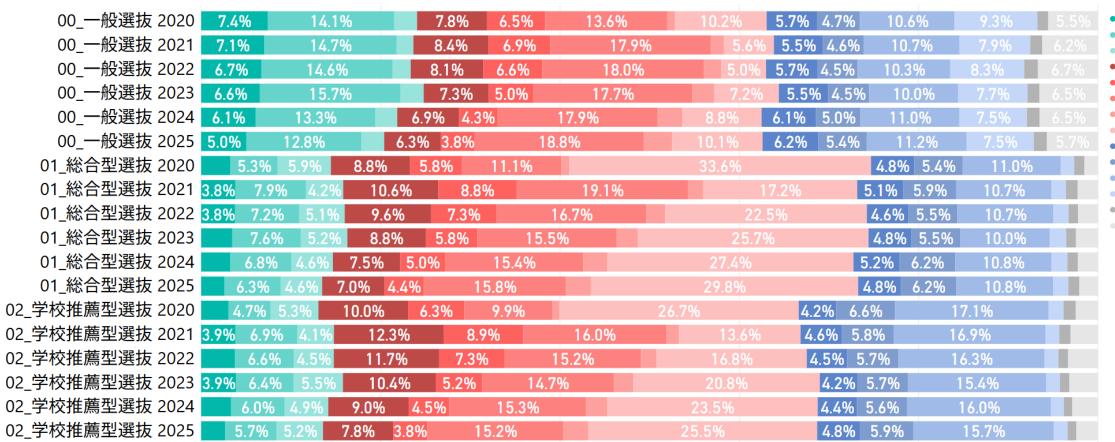
一方で総合型選抜と学校推薦型選抜では自習をしない層が拡大傾向で、総合型選抜では1時間未満が1/3強に



- 01 進学情報誌
- ●02_進学情報ウェブサイト
- 03 進学説明会
- ●04_大学の学部案内パンフレット
- ●05 大学の総合案内パンフレット
- ●06 大学のホームページ
- ●07_大学のSNS
- ●08_大学のオープンキャンパス
- ●09_家族・親戚の勧め
- ●10_先輩や友人などの話
- ●11_高校の先生との面談や話
- ●12_予備校や塾からの情報
- ●13_その他
- ■14_特にない・わからない

「オープンキャンパス」の選択率がもっとも高くなった

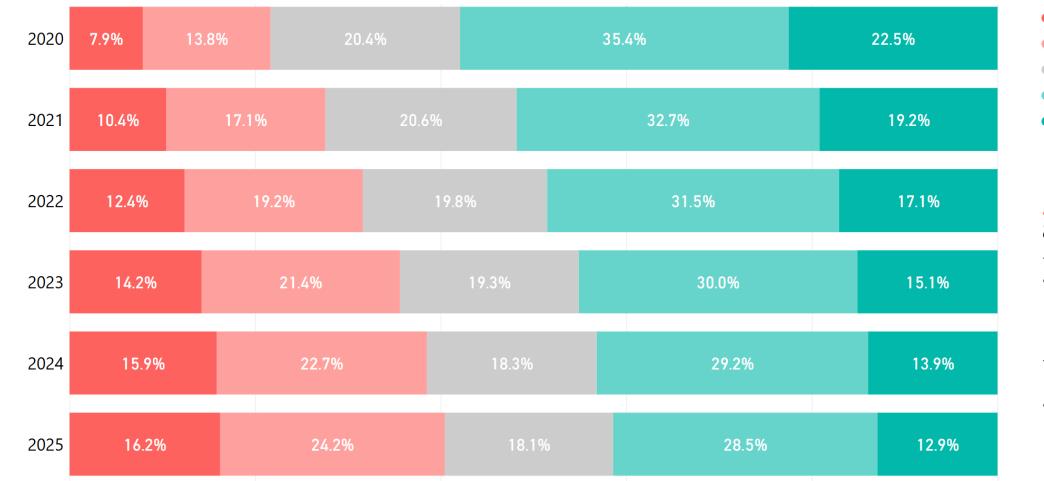
「オープンキャンパス」が2021年以降選択率が高まり、2025年度では2割弱と最多で、2020年よりも高くなった 一方で「進学情報ウェブサイト」やパンフレット類は、選択率が低下してきている



- ●01_進学情報誌
- ●02_進学情報ウェブサイト
- ●03 進学説明会
- ●04_大学の学部案内パンフレット
- ●05_大学の総合案内パンフレット
- ●06_大学のホームページ
- ●07_大学のSNS
- ●08_大学のオープンキャンパス
- ●09_家族・親戚の勧め
- ●10 先輩や友人などの話
- ●11 高校の先生との面談や話
- ●12_予備校や塾からの情報
- ●13_その他
- ●14_特にない・わからない

入試方式によって情報源にばらつき

一般選抜では「オープンキャンパス」の選択率は増加傾向ながら低く、最多は「大学のホームページ」であり、他の選択肢の選択率も高い 年内入試では「オープンキャンパス」が増加傾向かつ最多だが、学校推薦型では「高校の先生との面談や話」がその次に多い



- ●1_Aにあてはまる
- ●2_A にややあてはまる
- ●3_どちらともいえない
- ●4_Bにややあてはまる
- ●5_Bにあてはまる

Δ...

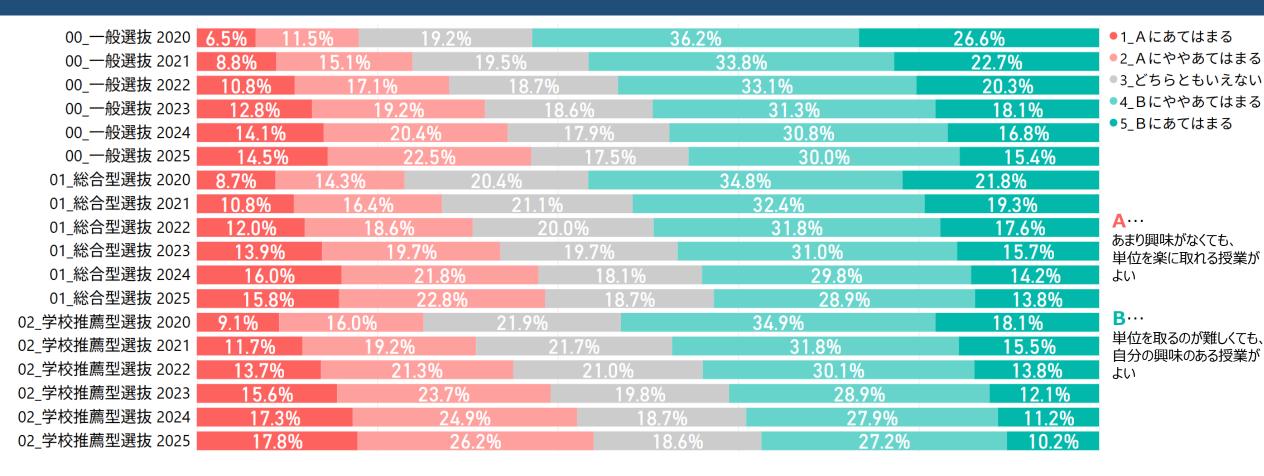
あまり興味がなくても、 単位を楽に取れる授業が よい

B...

単位を取るのが難しくても、 自分の興味のある授業が よい

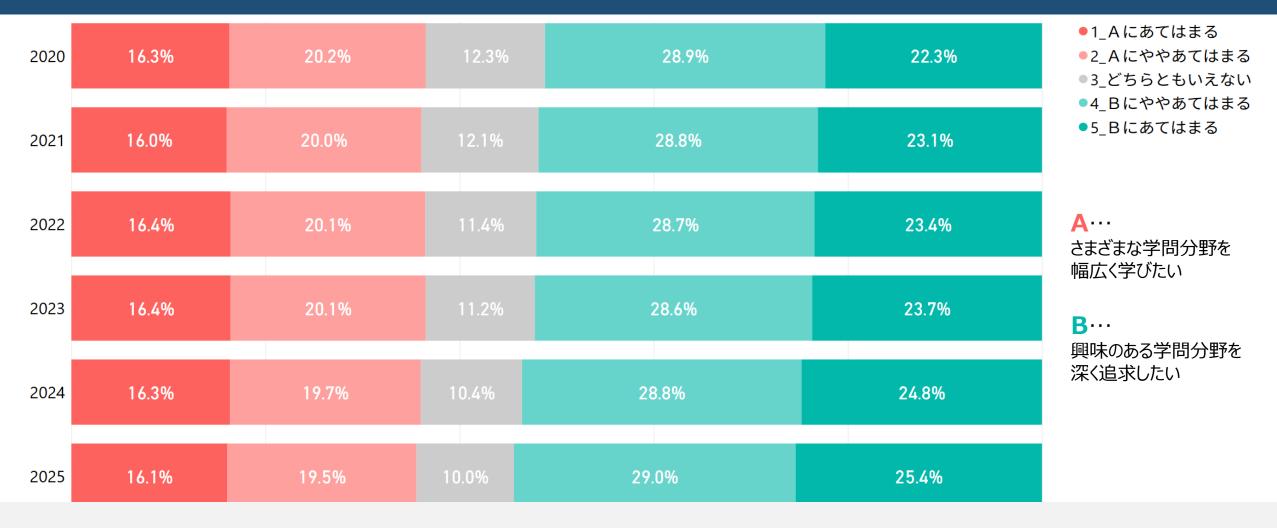
「楽単思考」の学生が4割を超える

「楽に単位が取れる授業がよい」に対して「あてはまる」+「ややあてはまる」と回答した学生の比率は増加傾向 2025年では4割を超え、「興味のある授業がよい」とほぼ同じ比率に



どの入試方式でも「楽単志向」が拡大

どの入試方式でも「単位を楽に取れる授業がよい」とする学生の比率が5年連続で増加 特に学校推薦型では4割強と、「興味のある授業がよい」を上回る選択率となっている



「深く追求したい」とする学生が増加傾向

「幅広く学びたい」を選択する(「あてはまる」 + 「ややあてはまる」)学生の比率は安定的であり、1/3以上の学生が選択一方で「深く追求したい」とする学生は増加傾向で、2025年では「あてはまる」だけでも1/4を超えた

00_一般選抜 2020	15.8%	19.0%	12.8%	28.5%	24.0%
00_一般選抜 2021	15.5%	19.1%	12.4%	28.1%	25.0%
00_一般選抜 2022	15.8%	18.9%	12.0%	28.1%	25.2%
00_一般選抜 2023	15.7%	19.2%	11.3%	27.9%	25.9%
00_一般選抜 2024	15.7%	18.7%	10.7%	28.1%	26.8%
00_一般選抜 2025	15.4%	18.6%	10.1%	28.4%	27.4%
01_総合型選抜 2020	16.7%	19.6%	12.0%	29.2%	22.4%
01_総合型選抜 2021	15.5%	19.3%	12.0%	29.6%	23.6%
01_総合型選抜 2022	16.2%	20.2%	11.0%	29.0%	23.5%
01_総合型選抜 2023	16.5%	19.4%	11.6%	28.7%	23.7%
01_総合型選抜 2024	16.6%	19.1%	10.3%	28.9%	25.0%
01_総合型選抜 2025	16.4%	19.2%	9.8%	29.2%	25.4%
02_学校推薦型選抜 2020	16.6%	21.6%	11.9%	29.6%	20.4%
02_学校推薦型選抜 2021	16.3%	21.0%	11.8%	29.6%	21.2%
02_学校推薦型選抜 2022	16.8%	21.2%	10.9%	29.3%	21.8%
02_学校推薦型選抜 2023	16.8%	20.9%	11.0%	29.5%	21.7%
02_学校推薦型選抜 2024	16.6%	20.5%	10.1%	29.8%	23.1%
02_学校推薦型選抜 2025	16.3%	20.2%	9.8%	29.9%	23.8%

●1_A にあてはまる

●2_A にややあてはまる

●3_どちらともいえない

●4_Bにややあてはまる

5_Bにあてはまる

Δ...

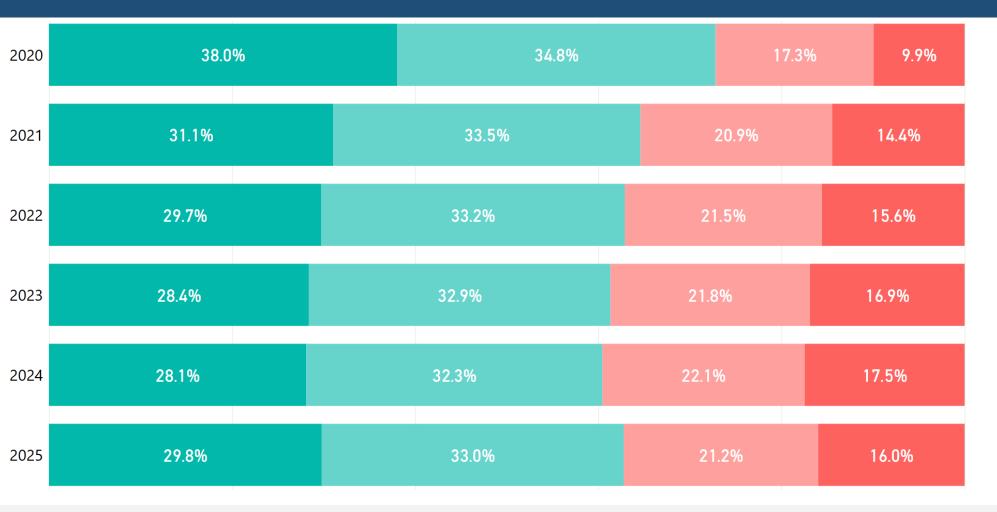
さまざまな学問分野を 幅広く学びたい

B...

興味のある学問分野を 深く追求したい

入試方式による差は見られない

「幅広く学びたい」とする学生の比率はどの入試方式でも安定的に推移「深く追求したい」を「あてはまる」と回答する学生もほぼ同比率で増加

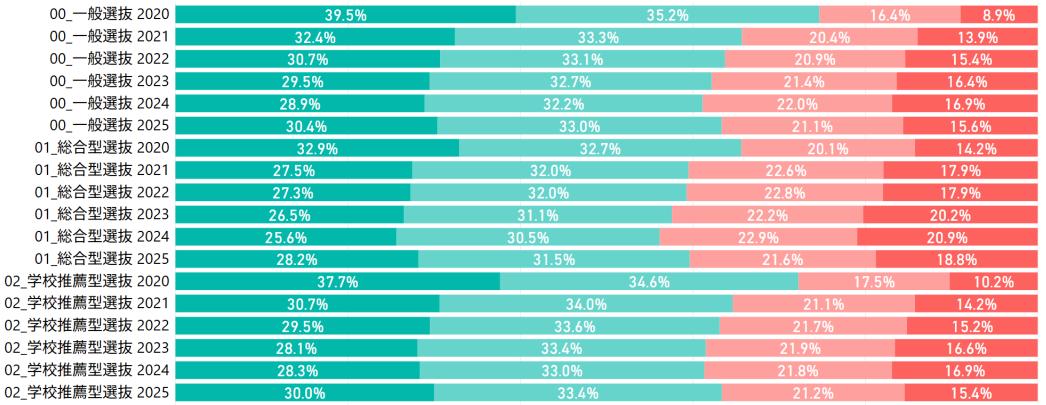


- ●1_非常にあてはまる
- ●2_ややあてはまる
- ●3_あまりあてはまらない
- ●4_まったくあてはまらない

友人関係の不安がやや増加

減少傾向が続いていた「友人ができるか不安がある」の肯定回答率(「非常にあてはまる」+「ややあてはまる」)が2025年にわずかながら増加に転じたただし、2020年の水準にまでは至っていない

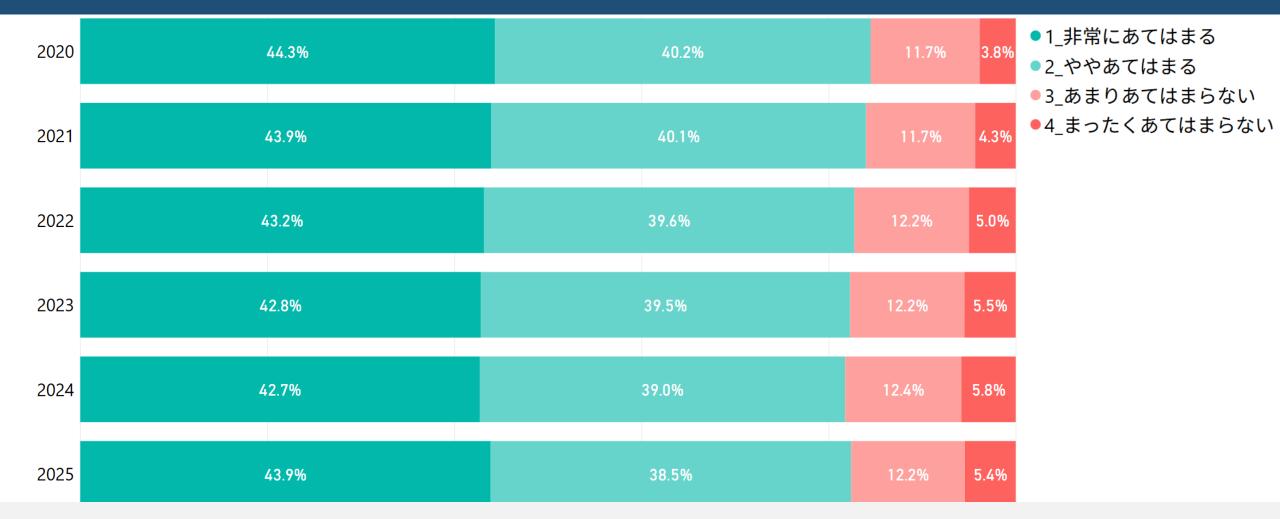
© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved.



- ▶●1_非常にあてはまる
- ●2_ややあてはまる
- ●3_あまりあてはまらない
- ●4_まったくあてはまらない

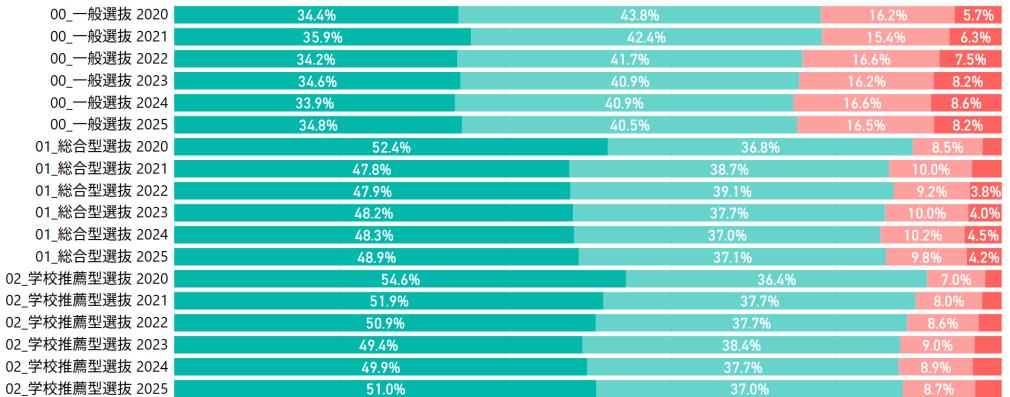
入試方式による差は、見られない

どの入試方式でも「友人ができるか不安がある」の肯定回答率(「非常にあてはまる」+「ややあてはまる」)が2025年に増加 否定回答率(「あまりあてはまらない」+「まったくあてはまらない」)は総合型選抜が他の方式よりもやや高い



授業への不安がやや増加

「授業についていけるか不安がある」に対して「非常にあてはまる」と回答した学生の比率が、2025年で増加に転じる 「ややあてはまる」まで加えると、授業に不安がある学生の比率は8割を超える



- ●1_非常にあてはまる
- ●2_ややあてはまる
- ●3_あまりあてはまらない
- ●4_まったくあてはまらない

年内入試の学生の授業に対する不安が強い

どの入試方式でも2025年で「非常にあてはまる」が増加に転じる

ただし、一般選抜ではその比率が1/3程度であるのに対し、年内入試では5割前後となっている

■旧課程(大学2年生以上)

国語総合 国語表現 〇 2 単域で通河 現代文A 2 現代文B 2 古典A 古典B _0 世界史A 世界史B 日本史A 4 2 日本史B -0 地理B 「現代社会」又は 「倫理」・「政治・経 政治・経済 〇2點球切荷 数学Ⅱ 5 数学Ⅲ 数学A 2 数学B 数学活用 科学と人間生活 物理基礎 「科学と人 関生活」を 化学基礎 含む2科目 又は 生物基礎 基礎を付し た科目を3 地学基礎 科目 理科課題研究 コミュニケーション英語基礎 コミュニケーション英語Ⅰ 〇 2単位末で新河 外国語 コミュニケーション英語Ⅱ コミュニケーション英語皿 2 英語表現 I 英語表現Ⅱ 英語会話 社会と情報 -0 情報の科学 総合的な学習の時間 3~6 〇2백號院

■新課程(大学1年生)

教科	科目	標準単位数	必履修 科目
国語	現代の国語 言語文化 論理国語 文学国語 国語表現 古典探究	2 2 4 4 4 4	0
地理歷史	地理総合 地理探究 歴史総学 世界史探究 世界史探究	2 3 2 3 3	0
公民	公共 倫理 政治・経済	2 2 2	0
数学	数学 I 数学学 II 数学学 II 数学学 A 数学 B 数学 C	3 4 3 2 2 2	〇 2單波で減月
理科	科学と人間生活 物理 ・基礎 ・化学物基 ・基礎 ・生物学基 ・基礎 ・地学 ・地学	2 4 2 4 2 4 2 4 2 4	「科学と人 関生活」を 含む2科目 又は 基礎を付し た科目を3
外国語	英語353257-5337 I 英語353257-5337 II 英語353257-5337 II 論理・表現 II 論理・表現 II 論理・表現 II	3 4 4 2 2 2 2	○2剛はで網
情報	情報 I 情報 I	2 2	0
理数	理数探究基礎 理数探究	1 2~5	
総合的な	探究の時間	3~6	〇2剛は7河

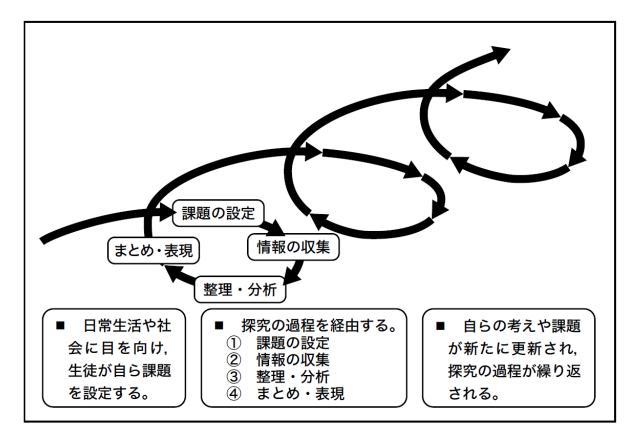
変化のポイント

①文系科目の再編

- ・「現代の国語」「言語文化」
- ・「地理総合」(49年ぶりに必履修科目)
- ・「歴史総合」(世界史と日本史の近現代史の融合科目)
- ・「公共」(旧課程の「現代社会」の後継科目という位置づけ)
- ・「論理・表現 I 」 など
- ②「数学 C」の新設
- ③共通必履修科目として「情報 I 」の新設
- ④「理数探究」「総合的な探究の時間」の新設

^{*} 文部科学省「高等学校学習指導要領」より作成

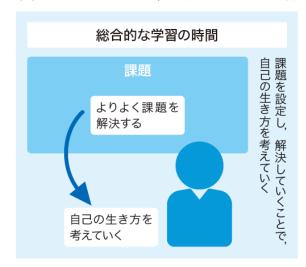
探究における生徒の学習の姿

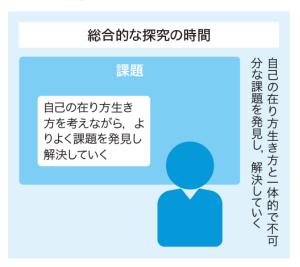


第1 目標

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

(2) 課題の設定において、生徒が自分で課題を発見する過程を重視する



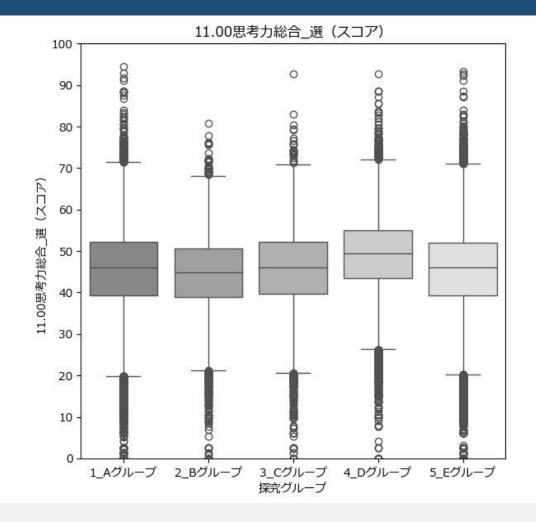


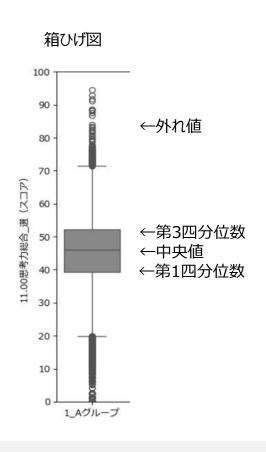
* 左図・右上図:文部科学省「高等学校学習指導要領(平成30 年告示)解説 総合的な探究の時間編」(2019年3月28日) * 右下図:文部科学省「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開 高等学校編」(2023年3月) ★検証したいこと: 高校時代に「探究」などを通じてどのような<u>経験</u>をしたかによって、 学生の思考力や姿勢・態度などに違いが出るのではないか

GPS-Academicの「経験」(段階値)

	課題を 設定する	解決策を 立案する	実行・ 検証する	人数	説明
Aグループ	SA	SA	SA	35,376	課題設定、解決策立案、実行検証のすべてをよくやっていた 学生群
Bグループ	BCD	SA	SA	6,074	課題設定は平均的またはそれ以下だが、解決策立案と実行 検証はよくやっていた学生群
Cグループ	SA	BCD	SA	6,318	課題設定と実行検証はよくやっていたが、解決策立案は平均 的またはそれ以下だった学生群
Dグループ	SA	SA	BCD	13,709	課題設定と解決策立案はよくやっていたが、実行検証が平均的またはそれ以下だった学生群
Eグループ	BCD	BCD	BCD	39,385	課題設定、解決策立案、実行検証のすべてが平均的または それ以下だった学生群

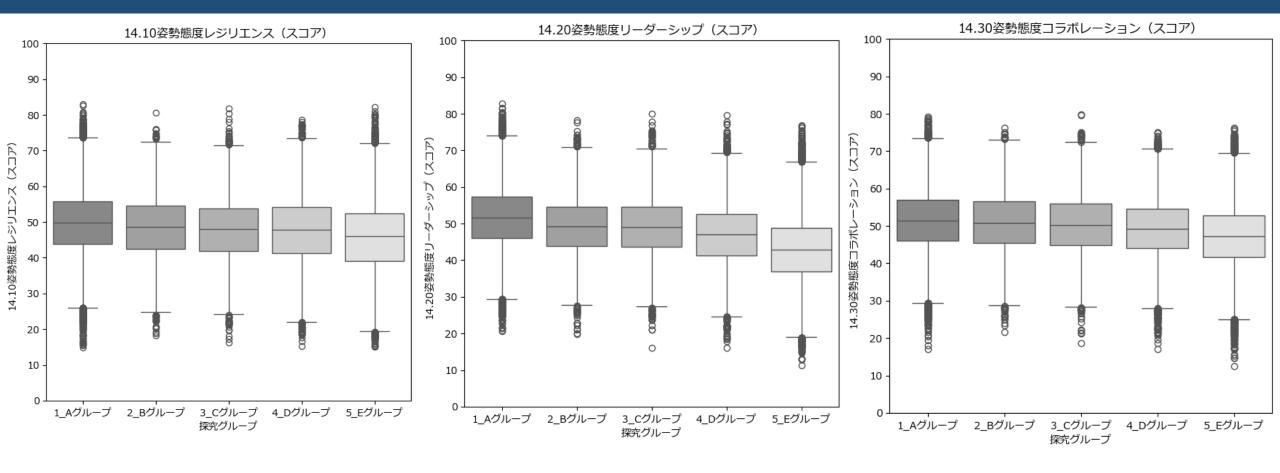
© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved.





思考力には大きな差は見られない

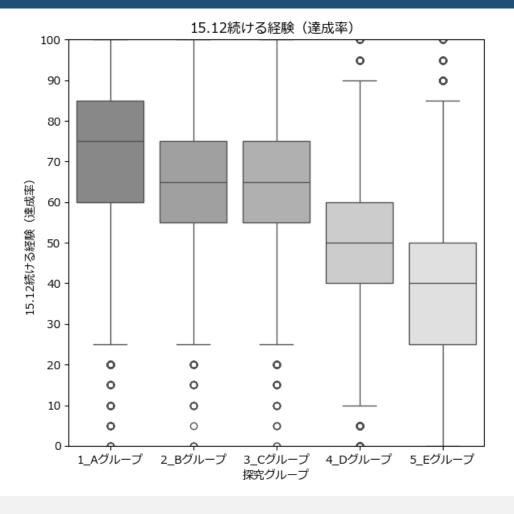
思考力総合では、グループ間での大きな差は見られない Dグループの平均スコアがやや高い



Aグループの姿勢・態度スコアが高い

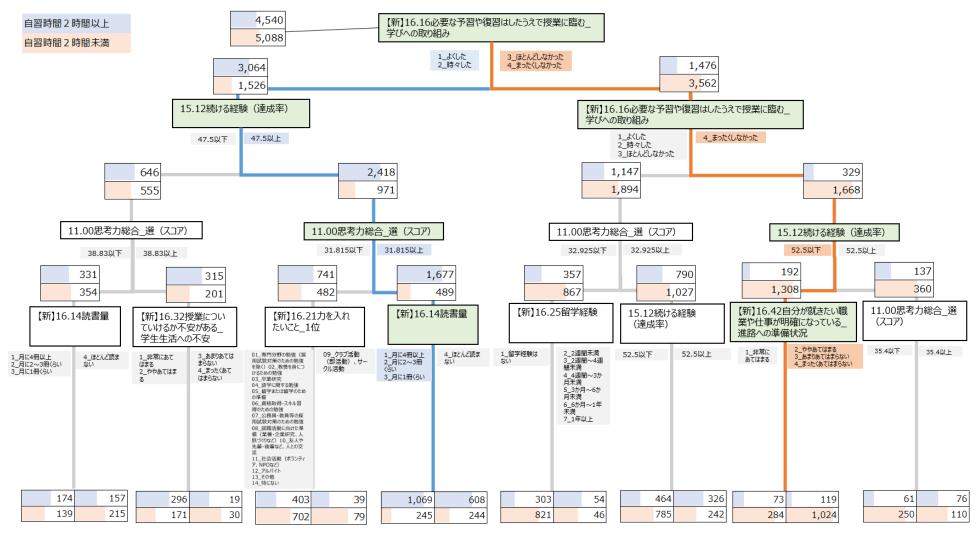
レジリエンス、リーダーシップ、コラボレーションのいずれでもAグループのスコアは高く、特にリーダーシップで他のグループよりも高くなっている 一方で、Eグループはどの姿勢・態度も他のグループと比較して低い

© Benesse i-Career Co., Ltd. All Rights Reserved.



「続ける経験」がAグループが高く、D・Eグループが低い

「続ける経験」は、Aグループがもっとも高いスコアとなった D・Eグループが低く、Eグループがもっとも低い





授業の予復習に加えて、「続ける経験」をしていることが重要

思考力が高いこと、読書量を確保していること、就きたい職業が非常に明確になっていること等も影響

GPS-Academicで「続ける経験」を問う質問

- ・ 勉強や進路などの目標は忘れずに意識した
- 勉強の習慣をつける工夫をした
- 苦手なことでも続けられるように工夫した。
- 勉強がうまくいかなかったときは、いろいろなやり方を試した。
- ・ 自分の目標は達成するまであきらめずやり遂げた



目標達成に向けて、工夫をしながら継続的に勉強できる、「自己管理力」を養う経験

· 高校の新課程で重視される「**自己調整学習**」によって、さらに涵養される可能性

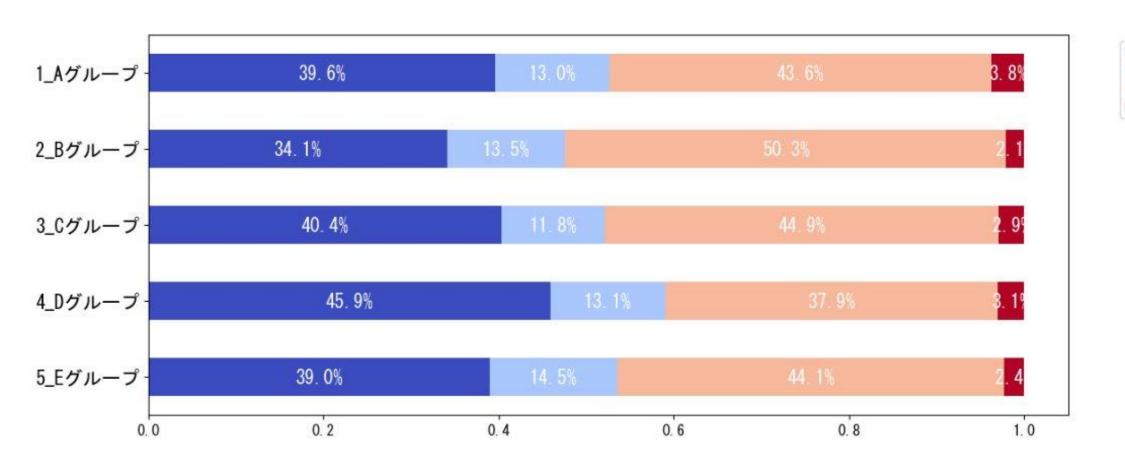
入試区分ごと

■ 00_一般選抜

■ 03_その他

01_総合型選抜

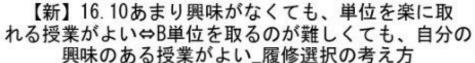
02_学校推薦型選抜

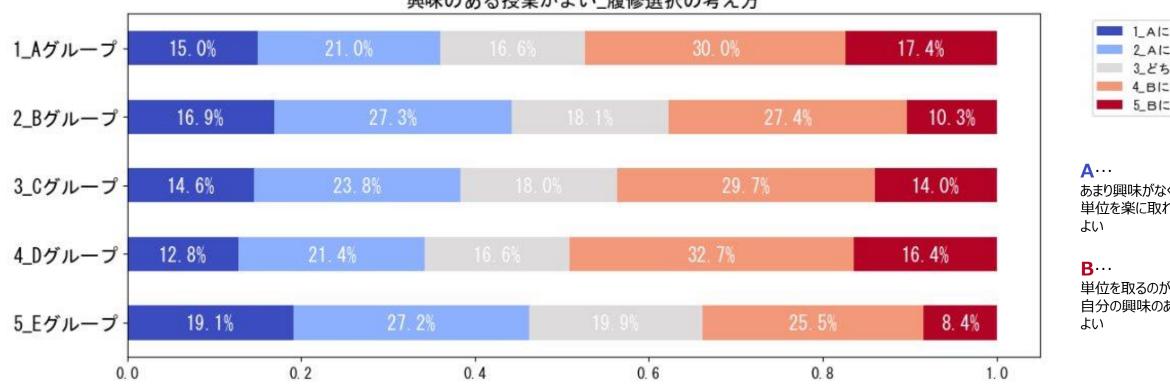


Dグループには一般選抜が多く、Bグループでは学校推薦型が多い

Dグループは一般選抜の学生の比率が高く、Bグループは学校推薦型の学生の比率が高い 総合型選抜の学生はどのグループでもほぼ同比率で存在

40





1_Aにあてはまる 2.Aにややあてはまる 3_どちらともいえない 4_Bにややあてはまる 5_Bにあてはまる

あまり興味がなくても、 単位を楽に取れる授業が

単位を取るのが難しくても、 自分の興味のある授業が

「楽単志向」が強いのはEグループ

「単位を楽に取れる授業がよい」と考える学生がもっとも多いのはEグループ 「興味のある授業がよい」と考える学生がもっとも多いのはDグループだが、「あてはまる」がもっとも高いのはAグループ

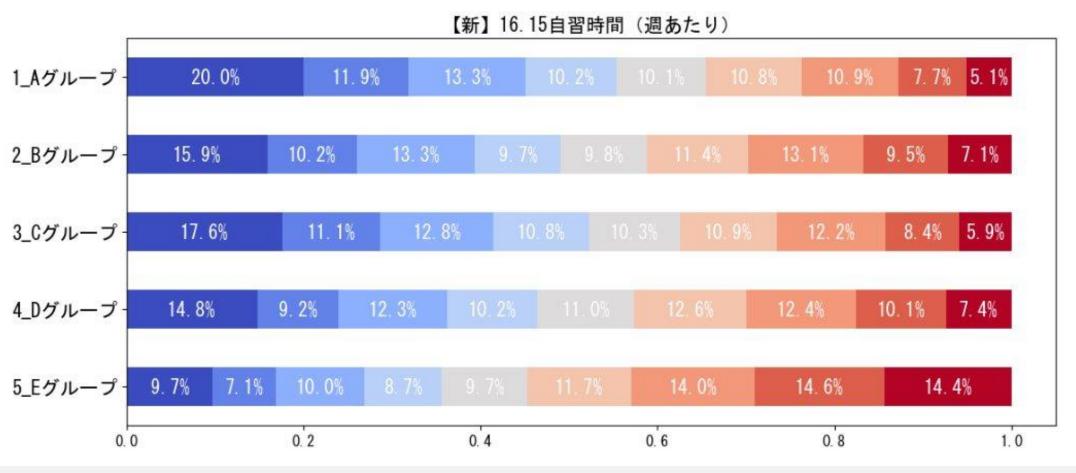
1_10時間以上

2.7~10時間未満

3_5~7時間未満 4_4~5時間未満 5_3~4時間未満 6_2~3時間未満

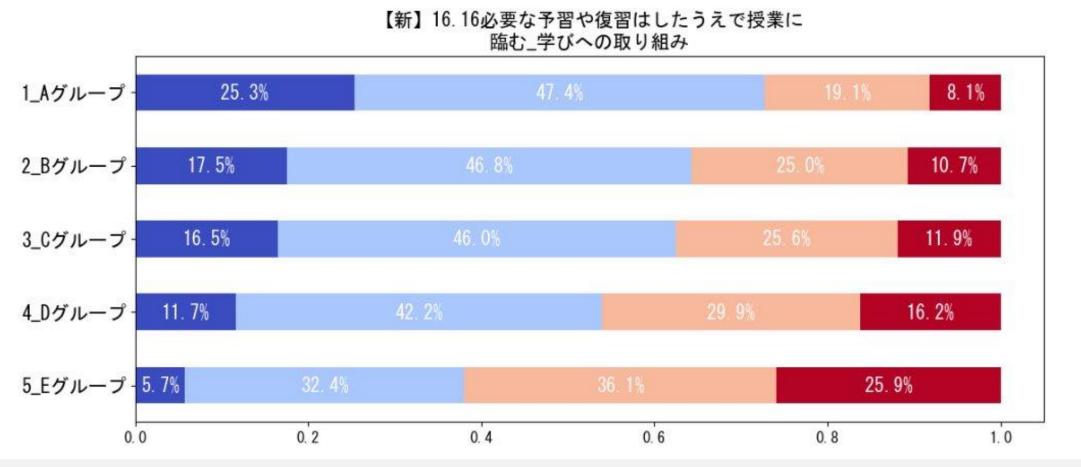
7_1~2時間未満 8_1時間未満

9_自習はしていない



3時間以上の自習時間を確保できているのはAグループ

Aグループでは自習時間として3時間以上確保できていた学生が多い 一方でEグループの自習時間は短く、1時間未満だった学生が3割弱となっている



■ 1_よくした 2.時々した ■ 3_ほとんどしなかった ■ 4_まったくしなかった

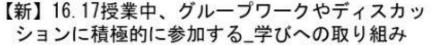
予復習の習慣はグループ間で差が見られる

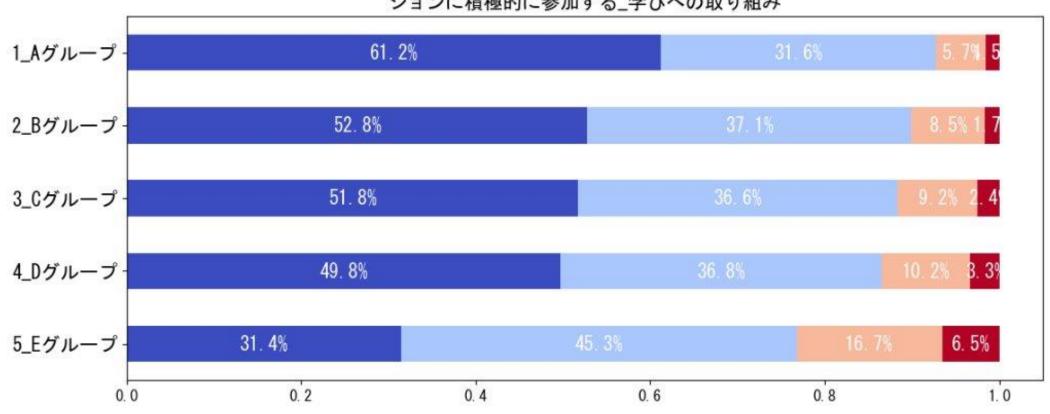
予復習を「よくした」+ 「時々した」と回答した比率がもっとも高いのはAグループで、7割を超える以下、B>C>D>Eの順となり、Eグループでは「まったくしなかった」が1/4を超える

■ 1_よくした

2.時々した

3_ほとんどしなかった 4_まったくしなかった

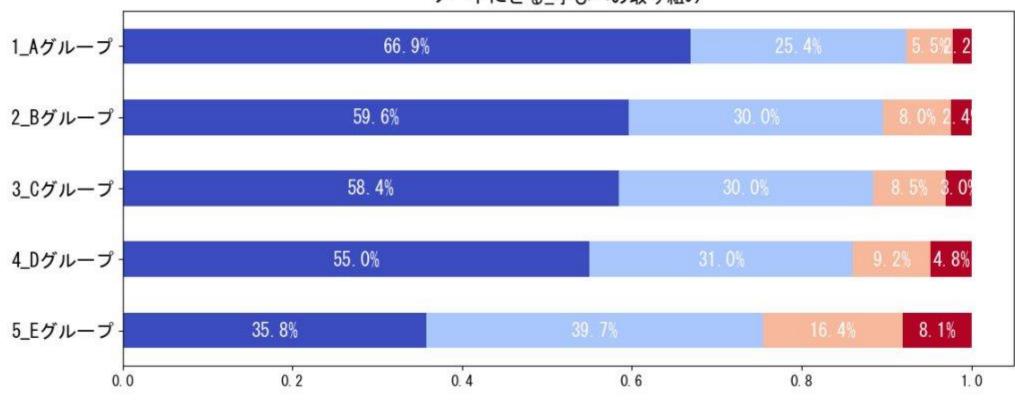


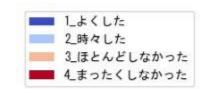


グループワーク等の参加には、グループ間の差が見られる

Aグループの学生の6割以上は、グループワーク等への積極的な参加を「よくした」と回答し、グループ間でもっとも高い以下、B>C>D>Eの順となり、Eグループでは3割程度にとどまる

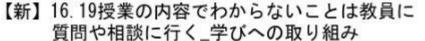
【新】16.18板書や投影資料以外でも大事なことは ノートにとる_学びへの取り組み

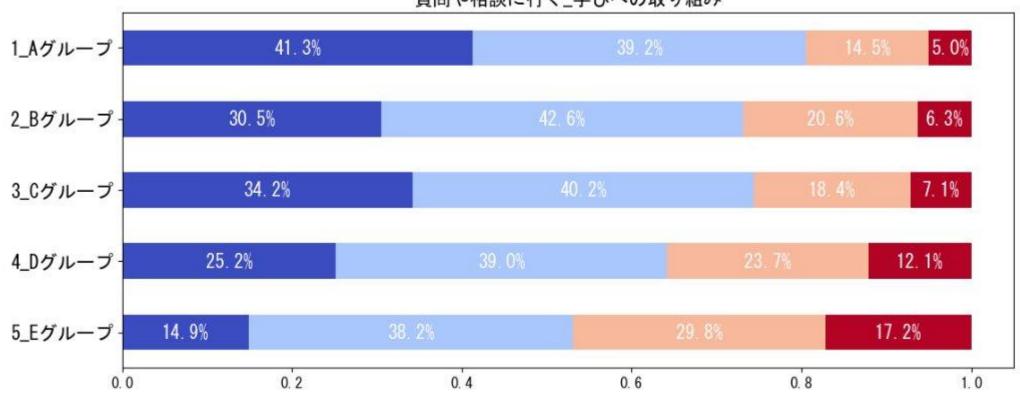




「大事なことをノートにとる」では、グループ間の差が見られる

「大事なことをノートにとる」ことを「よくした」学生の比率がもっとも高いのはAグループで、7割弱以下、B> C> D> Eの順で、Eグループでは1/3程度にとどまる

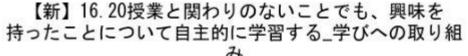


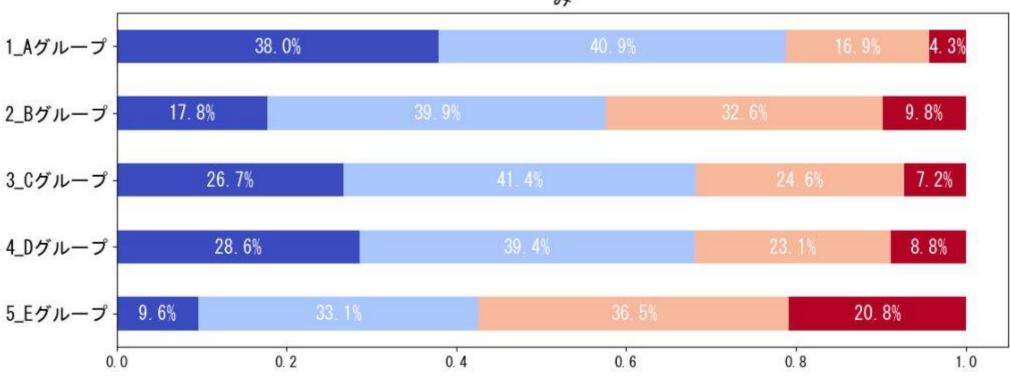


■ 1_よくした 2.時々した 3_ほとんどしなかった ■ 4_まったくしなかった

「教員への質問」をよくしたのはAグループとCグループ

「教員への質問」を「よくした」比率がもっとも高いのは、約4割のAグループ その次に高いのはCグループで、1/3以上の学生が「よくした」と回答





1.よくした 2.時々した 3.ほとんどしなかった 4.まったくしなかった

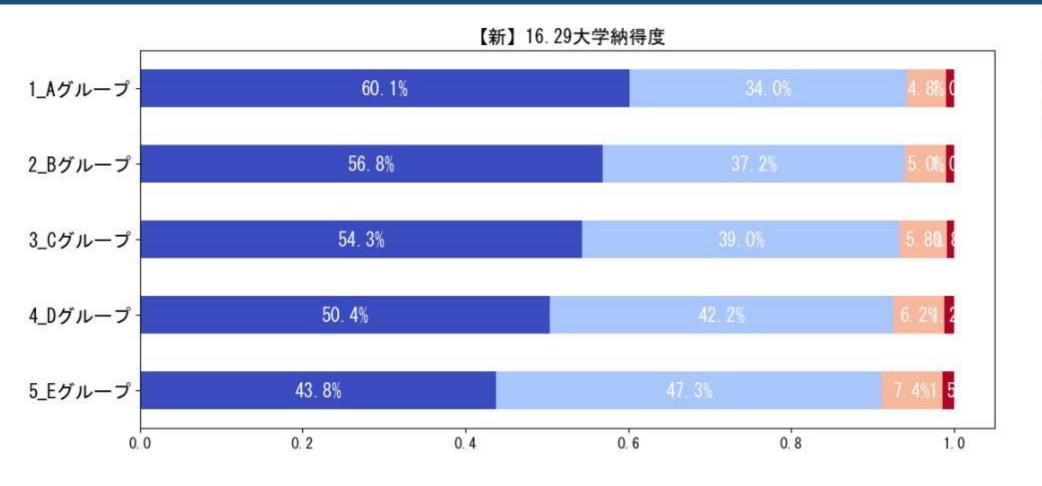
「自主的な学習」をもっともよくしたのはAグループ

Aグループの学生は「自主的な学習」を「よくした」と4割弱の学生が回答次いで、C・Dグループがほぼ同比率で並ぶが、Bグループでは2割以下、Eグループでは1割以下となる

1_とてもそう思う

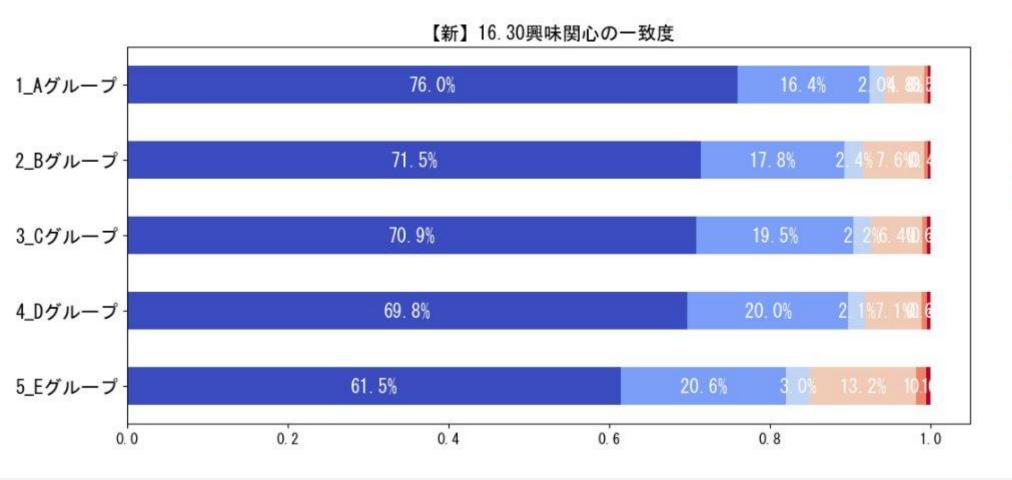
3_あまりそう思わない 4_まったくそう思わない

2.どちらかといえばそう思う



「大学納得度」では、「とてもそう思う」かにグループ間で差が見られる

「あなたが通う大学に入学して良かったと思うか」に対する肯定回答率(「とてもそう思う」+「どちらかといえばそう思う」)は、どのグループでも9割を超える ただし、「とてもそう思う」では違いがあり、6割を超えるAグループから順に、B>C>D>Eとなっている





「興味関心の一致度」は、3つに分かれた

「通学する学部・学科の学問内容と、自分の興味関心」が「一致している」と回答した学生の比率がもっとも高かったのは、8割弱のAグループ B・C・Dグループがそれぞれ7割前後で並び、Eグループは約6割にとどまった

大学1年生の トレンド変化

二極化·多様化

- 思考力
- 大学選択の情報源

全面的な変化

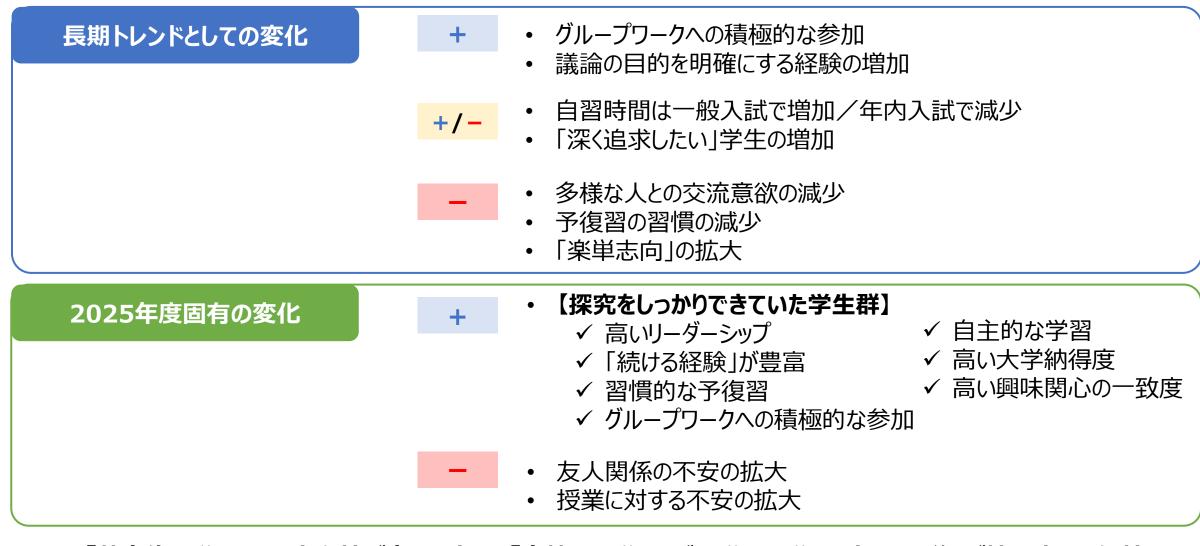
- 「楽単志向」の拡大
- グループワークやディスカッション 自習時間の減少 への積極性向上
- 授業の予復習実施率の低下
 - - ★特に年内入試

変化への 対応の視点

- ✓ 学習習慣の再確立と「自己調整学習」の促進
 - □ 高校での「新課程」や「一人1台端末」の影響への注目と、高大連携の強化
- ✓ 学生の特徴に応じた対応の強化
 - 入試区分等のフラグに存在した「ステレオタイプ的な学生像」の見直し



「学内データ」「客観データ」「主観データ」で学生を多面的に可視化・把握し 面談等で「個」に応じた対応・指導を行うことの重要性 = 「学修者本位の教育」の実践



「効率的な学び」への志向性が高まる中で、「高校での学び」が大学での学びに与える影響が拡大する可能性 ⇒<u>多様化する高校での学びを把握し、個別化する学生の「学修姿勢や意欲」に対応する重要性</u>